

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890100096
法人名	株式会社 スローライフ
事業所名	くうぶほうむ54番地 1階
所在地	松山市水泥町54番地
自己評価作成日	平成27年 8月11日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成27年8月26日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

共同生活介護サービス事業所ですので、利用者さんたちの暮らしを支援するという立場に立って、利用者さん同士の関係を大切にしたい支援を行っています。利用者さんがお互いに助け合う場面が多く、私たちとしては、その加減を調整する役割を心がけています。今後はさらに、喜怒哀楽を素直に表現でき、なおかつ許しあえる関係づくりをめざして前向きに取り組んでいきたいと考えています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

- 近所にある天満宮の夏祭りには出店を出し、地域との交流の機会を作っている。利用者は、職員と一緒に店番をした。秋祭りには、みこしや獅子舞が事業所に来る。地域社協が行う「福祉のつどい」に出かけて、利用者も「パン喰い競争」や「玉入れ」等に参加した。今年は「がんばったで賞」をもらい、賞状を居間に飾っていた。高校生の介護実習を受け入れており、昨年実習に来た高校生が法人に就職している。
- 地域の公民館で行われる「こたまの会」や「小野サロン」に出かけられるよう支援しており、利用者は手芸をしたり、カラオケや囲碁を楽しんでいる。近隣にある系列事業所の利用者が誘いに来てくれて、一緒に参加することもある。
- 仲良しの利用者の方に手作り料理を振る舞い喜んでもらいたいと思っている方があり、仲良しの方の好きな食材を使ったメニューを考えて買い出しに行き、調理できるよう支援している。

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 ぐるうぷほうむ54番地

(ユニット名) 1階

記入者(管理者)

氏名 山花 久美子

評価完了日 平成 27年 8月 11日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念に基づく運営方針をミーティングや申し送りなどで確認、共有しながら利用者に関わっている。日々のケア内容について職員全体で意見を出し合うように努め、実践につなげている。	
			(外部評価) 法人全体で「人生の継続性を大切に自分が自分として生きていく」と理念を掲げ、玄関や事務所に掲示している。新人職員の研修時や、日々の中でもケアを検討する際には、理念に立ち戻って考えるよう話している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 夏祭りや秋祭り、体育祭などの地域行事に積極的に参加している。近所への散歩や買い物などに出かけ、花を見せて頂いたり、挨拶を交わしたりと近隣の方たちと触れ合う機会をもつようになっている。 地域の子どもたちのまもるくんの家としても活動をしている。	
			(外部評価) 近所にある天満宮の夏祭りには出店を出し、地域との交流の機会を作っている。利用者は、職員と一緒に店番をした。秋祭りには、みこしや獅子舞が事業所に来る。地域社協が行う「福祉のつどい」に出かけて、利用者も「パン喰い競争」や「玉入れ」等に参加した。今年は「がんばったで賞」をもらい、賞状を居間に飾っていた。高校生の介護実習を受け入れており、昨年実習に来た高校生が法人に就職している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の暮らしの中で認知症の人への理解について運営推進会議等で報告している。また、来訪時には介護やケアのアドバイスを提供している。 人材育成についても、職場体験や実習生の受け入れも積極的に行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)  事業所での取組み内容や行事の報告をし、参加者からの意見や要望を頂いている。検討事項や実践したことなども報告、話し合いをし、サービス向上に努めている。	
			(外部評価)  会議には、民生委員や町区長、ご家族等の参加がある。利用者も参加して事業所での生活の様子や感想等と話される。区長からは、地域の行事等を教えてもらっており、利用者も参加できるように支援している。利用者の生活の様子について、パワーポイントを使って事例紹介を行ったこともある。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価)  運営推進会議や訪問調査時に、担当者へ日々の暮らしぶりを詳しくお伝えするように心掛け、日頃より密に連絡をとるなど連携を深めている。	
			(外部評価)  運営推進会議時、避難訓練に参加した市の担当者の方からは、「職員が利用者に声を掛け続けているのがよかった」等と感想があった。又、行事報告については、「皆さん外出されていて良いですね」等の感想があった。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)  利用者一人ひとりの様子や外出しそうな時間帯を把握し、職員間での情報の共有や声かけをしっかりと行うようにしている。利用者が外出しそうな様子がある時は、一緒について行く等して安全面に配慮し、本人の希望に沿った支援ができるよう努めている。	
			(外部評価)  職員は、内部研修の中で、「身体拘束について」学んでおり、「ベッド柵の使い方」等、疑問があれば、管理者に聞いたり、ミーティングで取り上げて職員間で話し合い、拘束をしないケアが徹底できるよう取り組んでいる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 日々のケアの中で、不適切なケアや虐待、暴力的な行為がないかの確認を行い、管理者に報告し、虐待防止に努めている。また、ミーティングや勉強会等で虐待や不適切なケアについて話し合ったり勉強したりしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 職員の多くが制度がある事は知っているが、理解が不十分である。対応が必要と思われる利用者が今はいないが、勉強会を通して理解を深め、今後の活用に繋げていきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分な説明をさせてもらい契約をさせていただいている。また、改定の場合には事前に説明の文章を発送し、ご家族等の不安や疑問点を尋ね十分な説明を行い理解・納得を図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族には、電話や面会時に日々の様子や本人の思いを伝え、ご家族の意見や要望を伺う機会を持ち、出された意見や要望について、申送りやミーティングで話し合いをし、少しでも日々のケアの中で反映できるように努めている。 毎月、お手紙で利用者の近況報告を伝えるようにしている。 (外部評価) 系列事業所合同で季刊紙を発行していたが、現在は休止している。毎月、ご家族に書類を送付する際には、利用者の様子を手紙にして同封している。来訪のないご家族へは、法人専務がメールや電話で連絡している。	ご家族と一緒に活動するような機会作りや、ご家族同士が交流するような機会作りにも工夫してはどうだろうか。又、食事、入浴、外出等、事業所の取り組みをより具体的に知ってもらいながら、一緒に利用者の暮らしを支えていけるような取り組みにつなげていってほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見 や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に1回ミーティングを行い、情報を共有している。職員の 意見や要望を話し合い、運営に取り入れられるように努めて いる。	
			(外部評価) 月末に職員ミーティングを行い、利用者個々のケアや行事 予定について話し合っている。職員は、2ヶ月に1回行われ る地区のグループホーム交流会に参加して、他事業所と勉 強会を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、 勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やり がいなど、各自が向上心を持って働けるよう職 場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 運営者も現場に来ており、利用者や職員に声かけをし、職 員の業務や悩みを把握するように努めている。 職員の資格取得に向けた支援を行っている。	
			(外部評価) 研修や勉強会を受ける機会を設けており、参加した人が、 研修の報告をする場も作り、職員が情報を共有できるよう にしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機 会の確保や、働きながらトレーニングしていくこ とを進めている	(自己評価) 外部の研修等で同業者との交流や勉強の場を持ってい る。	
			(外部評価) ご本人の状態や状況を把握するように努め、思いや要望 等を受け止め、理解できるように努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する 機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互 訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上さ せていく取組みをしている	(自己評価)	
			(外部評価)	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っ ていること、不安なこと、要望等に耳を傾けなが ら、本人の安心を確保するための関係づくりに 努めている	(自己評価)	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族がどのような介護や支援を求められているのか、できるだけ細かく話を伺うようにしている。どのような対応が出来るかを職員間で話し合い、関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時、本人・ご家族の思いや要望等をお聞きし、出来る限りのサービスを提供し、信頼関係が築けるように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日々の生活の中で、利用者の得意な分野や力が発揮できる場をセッティングしたり、声かけを工夫したりしている。本人の思いを理解出来るように努め、暮らしの中で分かち合い、信頼しあえる関係作りに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時や手紙などで本人の様子を伝えたり、ご家族の思いを伺ったりしながら、職員と家族が同じ思いで、本人の生活を支えていけるような関係作りに努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 昔からの知人や友人に気兼ねなく面会に来て頂けるように配慮したり、自宅近くにドライブに出かけたりして、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
			(外部評価) 地域の公民館で行われる「こだまの会」や「小野サロン」に出かけられるよう支援しており、利用者は手芸をしたり、カラオケや囲碁を楽しんでいる。近隣にある系列事業所の利用者が誘いに来てくれて、一緒に参加することもある。学生時代の友人に手紙を出す方には、職員が切手やハガキを用意したり、投函してサポートしている。ドライブ時に、ご自分で投函する場合もある。「以前お世話になった」と言う方が利用者の方の毎日来られて、食事や入浴のお世話をしているようなケースもある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士が楽しく過ごせるような座席配置をする等、利用者同士の関係がスムーズにいくように職員が調整役として支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用が終了しても、必要に応じて支援や相談に応じられるように努めている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の関わりの中で、思いや意向を把握しその人らしく暮らせるように努めている。日々の申送りやミーティング等を通し、利用者さんの視点に立ち意見交換をし、話し合いを行うようにしている。	
			(外部評価) 日々の生活の中でご家族やご本人から聞いたこと、ADL、生活の特性等をフェイスシートに記入して、年に一回書き換えている。夜勤時等、職員は利用者の様子を見て、1対1で手を握りながらゆっくりとお話を聞くこともあり、利用者の方はよくお話をされるようだ。	利用者一人ひとりが、その人らしい暮らしを継続していけるように、利用者の思いや意向の把握に向け、職員が知り得た利用者の情報を蓄積していくようなアセスメントにも工夫してはどうだろうか。職員間で情報を共有し、介護計画につなげていってほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご本人やご家族からお話を聞き、これまでの生活歴やライフスタイルなどを少しでも詳しく把握するように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの1日の暮らしの流れに沿って、生活のリズムや本人の出来る力や分かる力の把握に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ご本人やご家族には日頃の関わりの中や面会時、電話の際に思いや意見を聞き、反映させるようにしている。月に1回のミーティングで、意見交換やモニタリングを行うようにしている。介護記録には、介護計画の目標を添付し、介護計画に沿った支援が実践できるよう努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者が、「どのように過ごしたいか」「生きがいは何か」等を考えながら、介護計画作成に取り組んでいる。ケアプランについて話し合う際、利用者も参加することがある。毎月、ミーティング時にケアカンファレンスを行っており、6ヶ月ごとの見直しにつなげている。介護記録用紙の上部に介護計画の目標を示しており、共有して支援し、記録しやすいように工夫している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>個別に日々の生活の様子や食事や排泄状況を記録、また気づきシートの記録をしたり、申送りノートに特記事項を記入したりして、職員間で情報を共有している。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ご本人やご家族の状況に応じて、柔軟な対応ができるように努めている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>地域や町内の行事に参加し、地域での暮らしを心地よく続けていけるように努めている。運営推進会議等で、区長さんや地域包括の方とも交流や意見交換を行っている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<p>(自己評価)</p> <p>週に一度、訪問看護事業所に来ていただいている。また、随時訪問看護の看護師に来てもらうなど医療連携をとっている。かかりつけ医師の選択は、ご本人やご家族の意向に沿っている。ご家族が受診や通院に同行出来ない場合は、ご家族の希望に応じ、職員が同行し、受診内容や体調の変化等、随時ご家族へ報告している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>受診する方には職員が同行している。受診結果は、担当職員がご家族に電話で報告している。日々の利用者の健康状態を訪問看護師が管理している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<p>(自己評価)</p> <p>身体状態に変化があった際は看護職や訪看に相談し、施設内で出来る限りのケアを行ったり、適切な受診や看護が受けられるように支援している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	<p>(自己評価)</p> <p>入院時は医療機関に必要な情報を提供し、関係者と話しをする機会を持つようになっている。入院中は職員が見舞うようにし回復状況を把握し、ご家族や病院関係者と情報交換しながら、速やかな退院支援に努めている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>事業所内で出来るケアについて説明し、ご本人やご家族の意向や希望を踏まえ、医師、訪看、職員が連携を組み、安心して納得できる最期を迎えられるように努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>入居時、利用者やご家族に終末期のあり方についての意向を聞いているが、状態変化時等に再度聞き取り、利用者やご家族の希望に沿った支援に努めている</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時や事故発生時に対応できるように、職員間で想定をしながら勉強会やミーティングで話し合いを行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回の避難訓練を行い、消防署の協力を得て利用者とともに避難経路の確認・消火器の使い方を再確認している。また、地域の避難訓練にも参加している。地域の協力体制として運営推進会議等で地域の協力を呼び掛けている。	
			(外部評価) 消防署の協力を得て避難訓練を行っており、運営推進会議と併せて避難訓練を行った際には、地域の自主防災連合会の会長にも参加をお願いして、地震時の注意点等について説明してもらった。又、ご家族からは、「リュックを用意するのもいいと思う」等の意見があった。地域の防災訓練に職員と利用者で参加して、煙の体験や消火器の使い方を習った。法人は、全国災害支援ネットワークに加入しており、災害時には、国内のネットワークで協力し合う体制がある。備蓄はお米を少し多めにストックしている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの気持ちを大切に考えて、言葉かけや対応を行うように努めている。利用者の情報等については、取り扱いに注意し管理するようにしている。	
			(外部評価) トイレへの声かけ時には、耳元で小声で行うように気を付けている。何度も排泄の声かけを行うと不機嫌になる方には、「お腹痛くないですか」と聞くようにしている。「そっとしておいて欲しい」利用者の居室に入る時には、「ノックを必ずする」「入室時ていねいに挨拶する」ことを職員で徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 一人ひとりに合わせた言葉かけを行い、利用者自身が決定出来る場面を作るようにしている。十分に意思表示できないような場合には、複数の選択肢の中から選ぶことが出来るようにしたり、表情や反応を見たりしながら自己決定出来るように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 基本的な1日の大まかな流れはあるが、一人ひとりのその日の状況や体調に合わせて対応するように努めている。また、一人ひとりの気持ちやペースを尊重しながら個別に支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人の意向や生活習慣に合わせて支援をするように心掛け、その人らしさを保てるように努めている。ご自分で決定しにくい利用者は職員と一緒に考えたりアドバイスしながら、身だしなみを整えるように支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一緒に買い物に出かけて食材を選んだり、畑で野菜を作って収穫する喜びを感じたりしながら、食事を楽しんでいる。利用者に献立の希望も聞くようにしている。食後の食器洗いやお盆拭きなど、利用者の負担が無いよう出来る範囲でお手伝いに参加してもらっている。	
			(外部評価) ユニットによっては、調理専門職員を配置して事業所で食事を作っている。冷蔵庫内の食材や利用者の希望を聞いて献立を立て、利用者と一緒に買い物に行ったり、菜園の採れたて野菜を使用している。職員も同じ食事を同じテーブルで食べながら、利用者をサポートしていた。時には、ハンバーガーや回転寿司を食べに外食することもある。普段は少食な方も外食すると、食欲が増すようだ。仲良しの利用者の方に手作り料理を振る舞い喜んでもらいたいと思っている方があり、仲良しの方の好きな食材を使ったメニューを考えて買い出しに行き、調理できるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの体調に合わせて、食事量や水分摂取量に配慮している。好きな物や食べやすい物を出すなどの工夫をしている。月に1回は体重測定し、増減を把握して食事量等配慮するようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、一人ひとりに合わせた口腔ケアを行っている。ご自分で出来る方は声かけ誘導、見守りをし、出来ない方には職員がケアを行っている。拒否される利用者には、タイミングや声かけを工夫し、ケアが出来るように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価) 排泄チェック表を使用し、一人ひとりの排泄のパターンを把握している。尿意のない利用者さんにも時間を見計らって誘導することによってトイレで排泄できるように支援している。</p> <p>(外部評価) 利用者の排泄パターンを把握して、声かけやトイレ誘導して支援している。トイレは、車椅子で入れる広めのトイレと一人用のトイレがある。夜間、パンツやおむつをはずしてしまう利用者があり、職員は、排泄パターンを調べて早めにトイレ介助をしたり、日勤、夜勤の申し送りを密にして原因を探りながらケアについて検討している。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 繊維質の多いものや乳製品を提供したり、水分補給をこまめにするなどして、便秘対策に取り組んでいる。また、腸の動きをよくするために軽い運動や散歩へ誘うように努めている。</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価) 利用者の体調や希望に合わせて入浴して頂いている。できるだけ湯舟に浸かってもらえるよう支援している。入浴に気が進まない時には、時間をおいたり声かけの工夫等で、清潔に保てるように支援している。</p> <p>(外部評価) お風呂を毎日準備して、午前、午後の希望を聞き、利用者が一日おきに入浴できるよう支援している。お湯は午前と午後に新しい湯に入れ替えている。体を洗うのに「強めにこすって欲しい」、「長風呂がいい」と言われる方には希望に沿って支援している。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 一人ひとりの生活のペースで日中の活動を促し、生活のリズムを整えるように努めている。また、利用者さんの様子や体調を見ながら、ゆっくりと休息が取れるように支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の処方箋をファイルに保管し、職員全員が内容を把握できるようにしている。処方の変更があった場合には、申送りノート等に記入し、全職員に周知するようにしている。薬の袋に記名をし、誤薬や飲み忘れが無いように複数の職員で確認するようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) できる事から役割を持ち、一人ひとりの力が発揮できるように支援している。月に一度外食に出かけ、気分転換も兼ね楽しみの行事として実施している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの希望に応じて、外出できるように努めている。近所のお店に出かけ買い物をしたり、短時間でも外出する機会を持ち、気分転換やストレス発散が出来るように努めている。	
			(外部評価) 朝晩、近所の池の土手を散歩することが日課になっている方がいる。利用者から買い物やドライブの希望があれば、他利用者にも希望を聞き、数名で出かけている。テレビのCMを見て利用者が八幡浜の「みなとへ行ってみたい」と希望され、行ってみたい方数名で出かけて食事もされた。外出行事を計画して、お花見やイチゴ狩り、コスモス見物、動物園等へも出かけている	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 買い物に行った時は、利用者さん本人に商品等選んでもらう。会計も職員と一緒に支払う事など支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の申し出があれば、電話や手紙など出来る範囲でやり取りができるよう支援に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 生活感や季節感のあるものを取り入れて、利用者が居心地良く安心して過ごせるような空間になるように配慮している。また、誰もが懐かしく親んでもらえるよう童謡をかける事もある。</p> <p>(外部評価) 周辺は田んぼが広がっており、稲の生育の様子がよく見える。玄関や廊下には、四国八十八か所のお寺の絵の額が飾られている。廊下には、行事時や外出時の利用者の笑顔の写真を掲示していた。居間には、ソファが配置してあり、昼食後に一休みする方や職員と一緒に洗濯物をたたんでいる方が見られた。菜園には、トマト、キュウリ、ナス等を育てており、利用者と職員で水やり等の世話をしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) リビングは、落ち着いてくつろげられるようソファやテーブル、イスなどの配置に配慮し、スペース作りに取り組んでいる。廊下にもイスやソファを置き、一人で過ごしたり、仲の良い利用者同士がくつろげるスペースも作っている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 居室には、使いなれた寝具やタンス、写真や思い出の品が持ち込まれており、それぞれの利用者が居心地良く過ごせるように配慮している。</p> <p>(外部評価) 気の合う方と部屋を共用して使用しているケースがあり、一室にソファやタンスお位牌を置き、もう一室に、ベッドを2つ並べて置いていた。居室の入り口には、それぞれ暖簾を掛けており、ドアを開けても部屋の中が丸見えにならないよう配慮している。居室で過ごすことを好む方には、生活のメリハリを付けるために、起床すると布団を上げ、就寝時に敷き、日中はできるだけ起きて活動できるような支援に取り組んでいる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 一人ひとりの身体機能の状態に合わせたり、理解力や判断力を見極めたりしながら、安全に出来るだけ自立した生活が出来るよう必要な目印を付けたり、物の配置に配慮をしている。</p>	